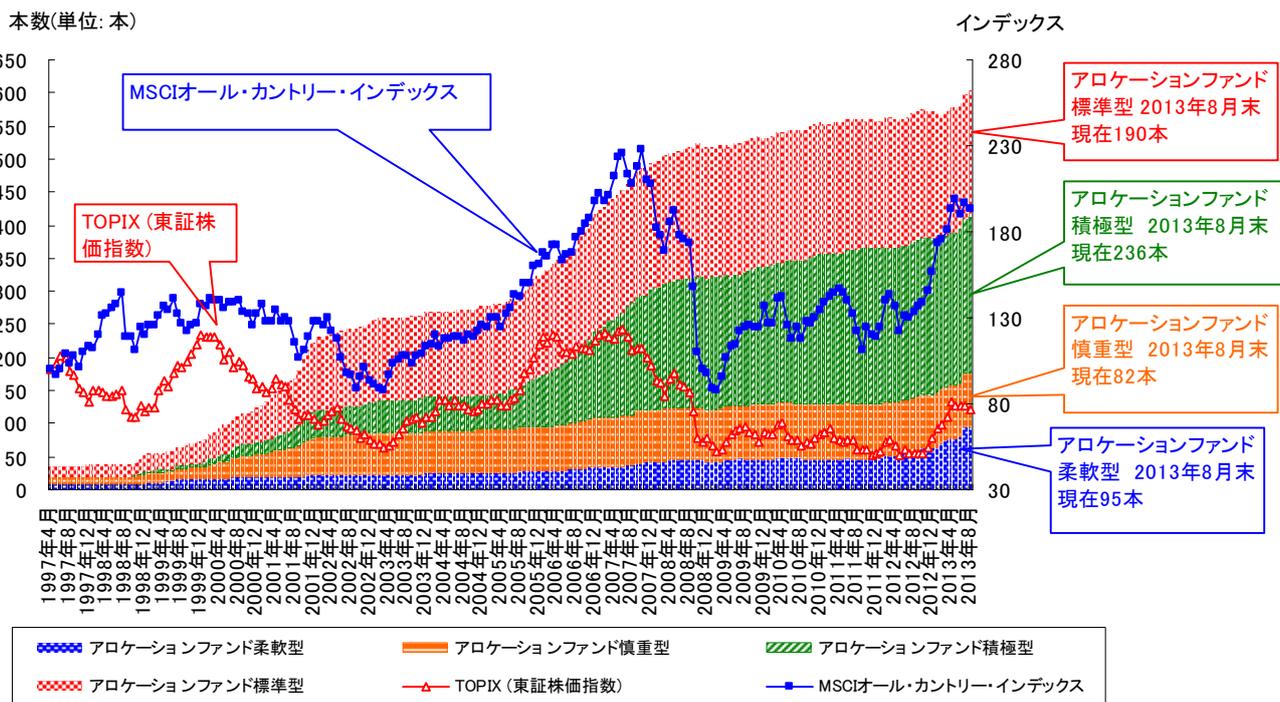


日本のアロケーション(資産複合)ファンドの本数・純資産・純設定

前回、NISA向け投信の設定増を背景に急増する新ファンドの本数と純設定額を分類別で見ること、海外株と海外債が増えていることがわかった(2013年9月24日付日本版ISAの道 その28～URLは後述[参考ホームページ])。ここで気になるのは、「各社がNISA用として勤める既存投信や新たに投入する専用投信を集計したところ、ファンド数はすでに172本に達した。中身をみると、初心者にもわかりやすい内容の投信が大半だ。株価指数などに連動するインデックス型が全体の30%を占める。…(略)…。次に多いのが、株や債券などへの分散投資で安定運用を狙うバランス型で、全体の25%だ。」(2013年9月18日付日本経済新聞朝刊1面トップ)となっている「バランス型」の動向である。

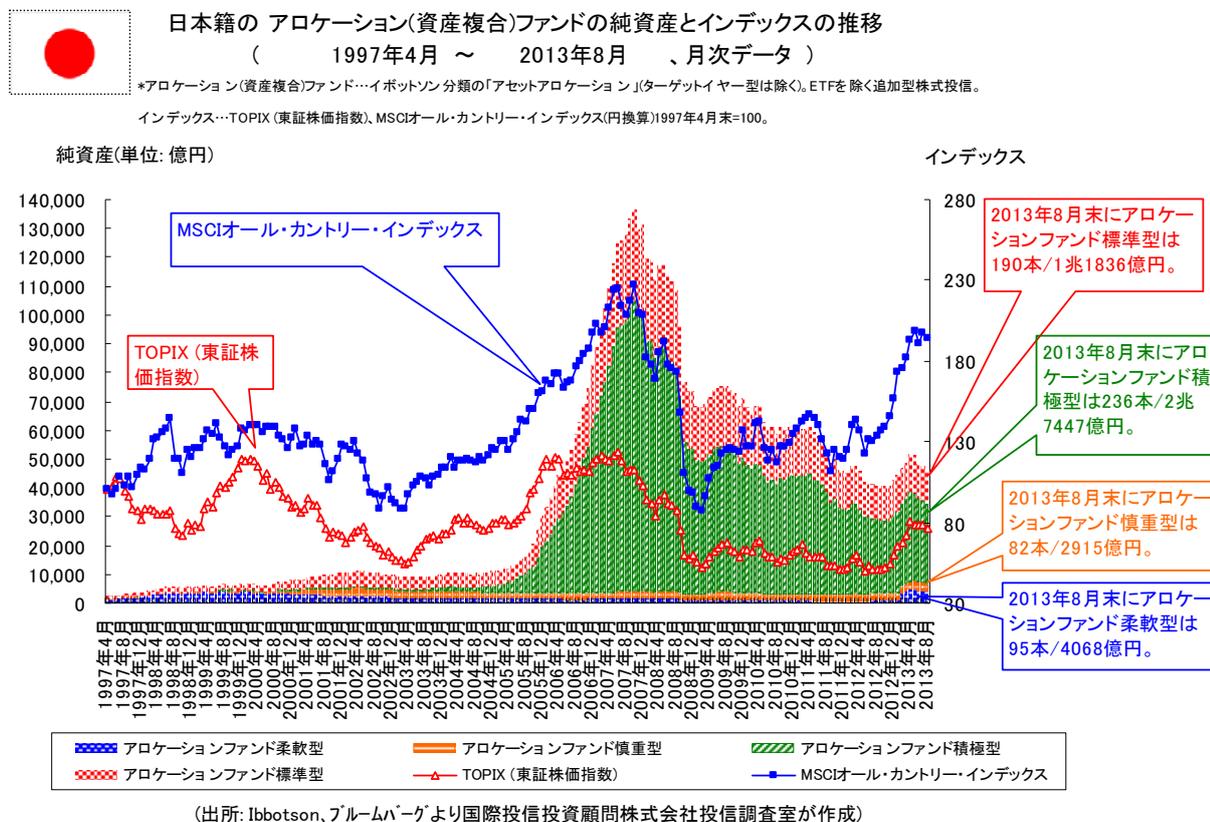
NISA向きとも言われる「バランス型」だが、今回はそれについて見ることにする。尚、「バランス型」と言うと、一般的な海外債ファンドや国内債ファンドなどを多々含む投資信託協会分類「バランス型」と混同、さらにイボットソン(ibbotson)やモーニングスター(Morningstar)などは「バランス型」を使わないことから、「アロケーション(資産複合)」を見ていく。また、「アロケーション(資産複合)」の内訳には、「柔軟型」(機動的資産配分)、「標準型」(株40～70%)、「積極型」(株70%超)、「慎重型」(株40%未満)などがあるので、それも合わせて見ていくことにする。まず、日本籍のアロケーション(資産複合)ファンドである。下記グラフが示す通り、ファンドの本数は2013年8月にかけて順調に増えていることがわかる。

日本籍のアロケーション(資産複合)ファンドの本数とインデックスの推移
(1997年4月～2013年8月、月次データ)
*アロケーション(資産複合)ファンド…イボットソン分類の「アセットアロケーション」(ターゲットイヤー型は除く)。ETFを除く追加型株式投信。
インデックス…TOPIX(東証株価指数)、MSCIオール・カントリー・インデックス(円換算)1997年4月末=100。

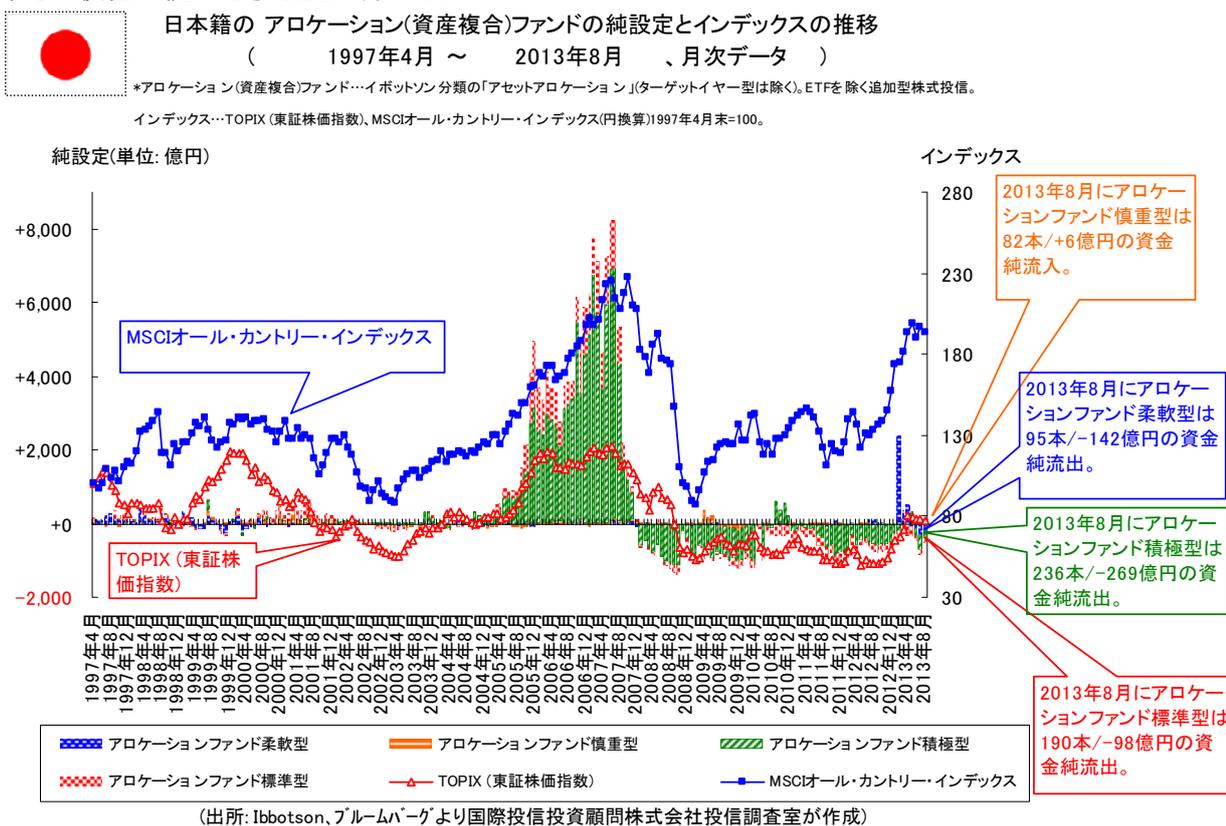


(出所: Ibbotson, ブルームバーグより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

一方、アロケーション(資産複合)ファンドの純資産を見ると、下記グラフが示す通り、2013年8月にかけて積極型を中心に低迷していることがわかる。



アロケーション(資産複合)ファンドを純設定で見ると、より顕著で、下記グラフが示す通り、2013年8月にかけて積極型を中心に流出が続いてきたことが分かる。



2007年をピークとする純資産と純設定の急増が目立つ。これは、アロケーション(資産複合)ファンド・ブームである。当時は投資する資産の数をとにかく増やすことが良いこととされる様な風潮が見られ、2006年7月27日には過去最多の13資産に投資するファンドも登場、それが1000億円超を集めて、大いに話題になった。しかし、そうした数を競う様な分散投資効果もリーマン・ショック(2008年9月15日)で崩れ出し、純資産の低迷、純流出の継続につながったのだ。資産の数が多いだけ、説明も厳しくなり、ダメージは大きかった。さらに、日本のアロケーション(資産複合)ファンドではかなりのウェイトで含まれる事の多い国内株の低迷が追い討ちをかけた。しかし、こうした事も、直近の国内株高と、NISAで期待される長期分散投資を契機に、大きく変わっていく可能性はある。

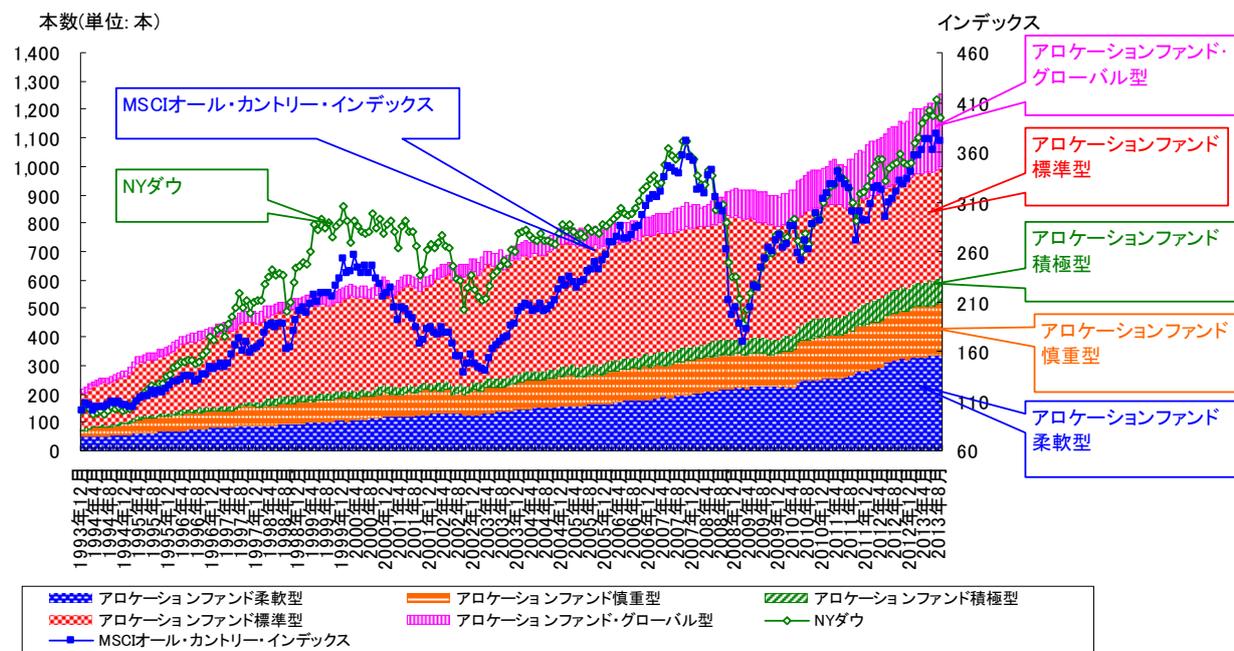
米国のアロケーション(資産複合)ファンドの本数・純資産・純設定

投信先進国である米国におけるアロケーション(資産複合)ファンドも気になるところである。米国籍のアロケーション(資産複合)ファンドの本数を見ると、下記グラフが示す通り、日本より順調に増えていることがわかる(*データについて日本籍は1997年4月からだったが、米国籍は1993年12月からと長いことに注意)。



米国籍のアロケーション(資産複合)ファンドの本数とインデックスの推移
 (1993年12月～2013年8月、月次データ)

*アロケーション(資産複合)ファンド…インスティテュショナル分類の「Allocation」(ターゲットイヤー型は除く)。ETFを含まず。
 インデックス…NYダウ、MSCIオール・カンントリー・インデックス(米ドル建て)1993年12月末=100。



(出所: Ibbotson, ブルームバーグより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

米国籍のアロケーション(資産複合)ファンドの本数が日本より順調に増えているが、純資産や純設定を見ると、次頁グラフが示す通り、さらに順調であることがわかるだろう。

米国も日本と同様、リーマン・ショック(2008年9月15日)の影響は受けている。当時は日本よりも大きな純流出となっている。しかし、その後の回復が著しいのである。もちろん、これは、米国の国内株急回復が大きな要因となっている。

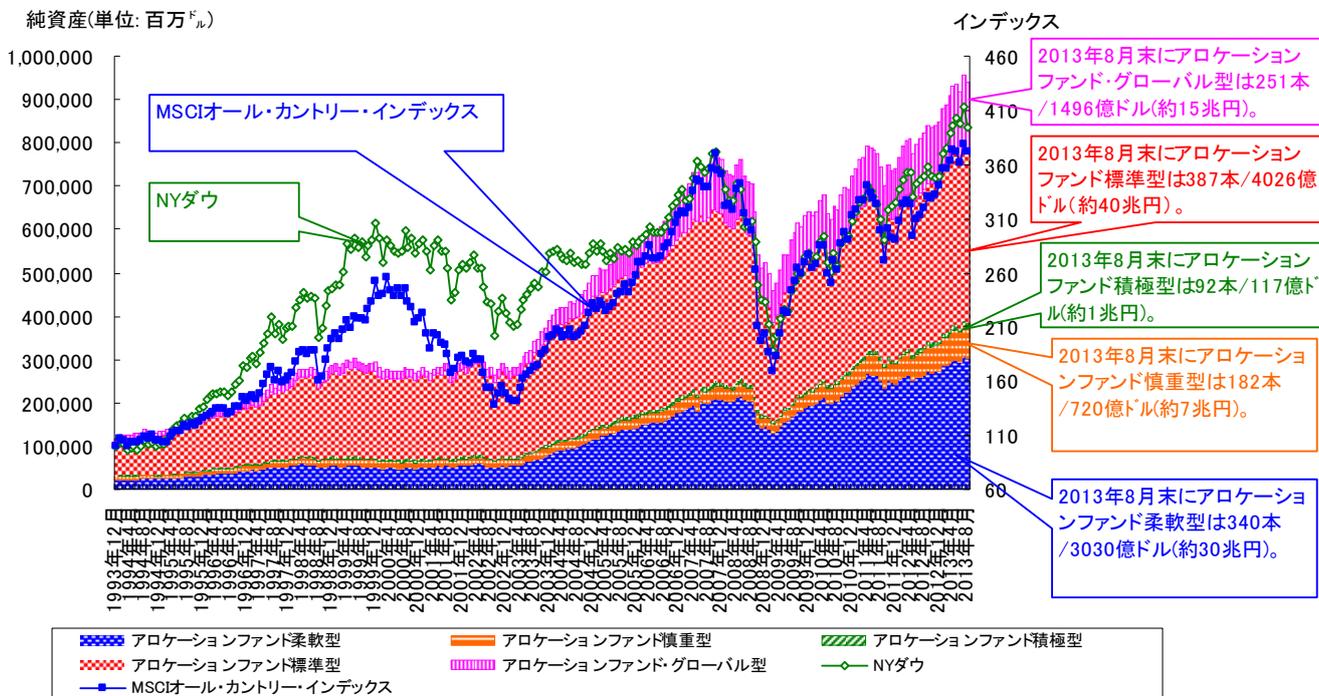
先の日本籍のアロケーション(資産複合)ファンドに関するグラフに示されるように、日本では国内株がかなり低調だった。先述した通り、日本籍のアロケーション(資産複合)ファンドでは、コアとして国内株が欠かせない存在であることからどうしてもリターンが低迷せざるを得なかったとも言えよう。繰り返し、安倍晋三政権の経済政策「アベノミクス」による円安・国内株高が続けば、これまで米国籍のアロケーション(資産複合)ファンドが辿ってきた道を日本も辿る可能性は十分あると言えよう。



米国籍のアロケーション(資産複合)ファンドの純資産とインデックスの推移
(1993年12月 ~ 2013年8月 、月次データ)

*アロケーション(資産複合)ファンド…インスティテューショナル分類の「Allocation」(ターゲットイヤー型は除く)。ETFを含まず。

インデックス…NYダウ、MSCIオール・カントリー・インデックス(米ドル建て)1993年12月末=100。



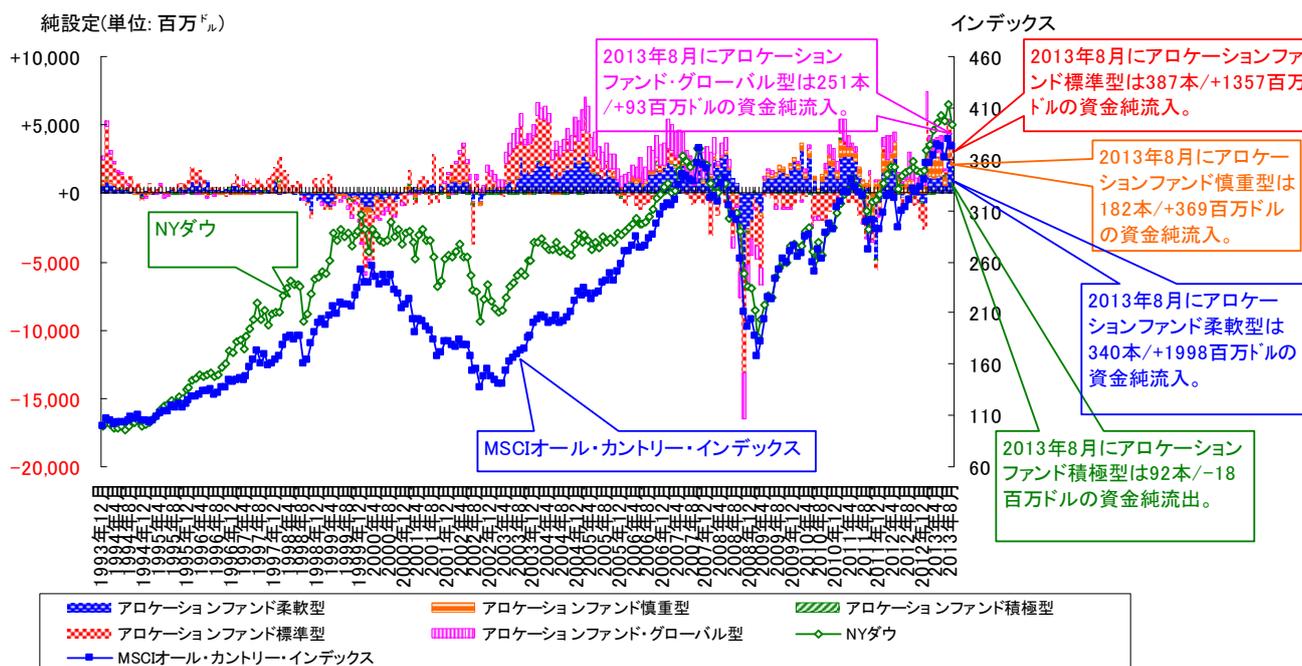
(出所: Ibbotson、ブルームバーグより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)



米国籍のアロケーション(資産複合)ファンドの純設定とインデックスの推移
(1993年12月 ~ 2013年8月 、月次データ)

*アロケーション(資産複合)ファンド…インスティテューショナル分類の「Allocation」(ターゲットイヤー型は除く)。ETFを含まず。

インデックス…NYダウ、MSCIオール・カントリー・インデックス(米ドル建て)1993年12月末=100。



(出所: Ibbotson、ブルームバーグより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

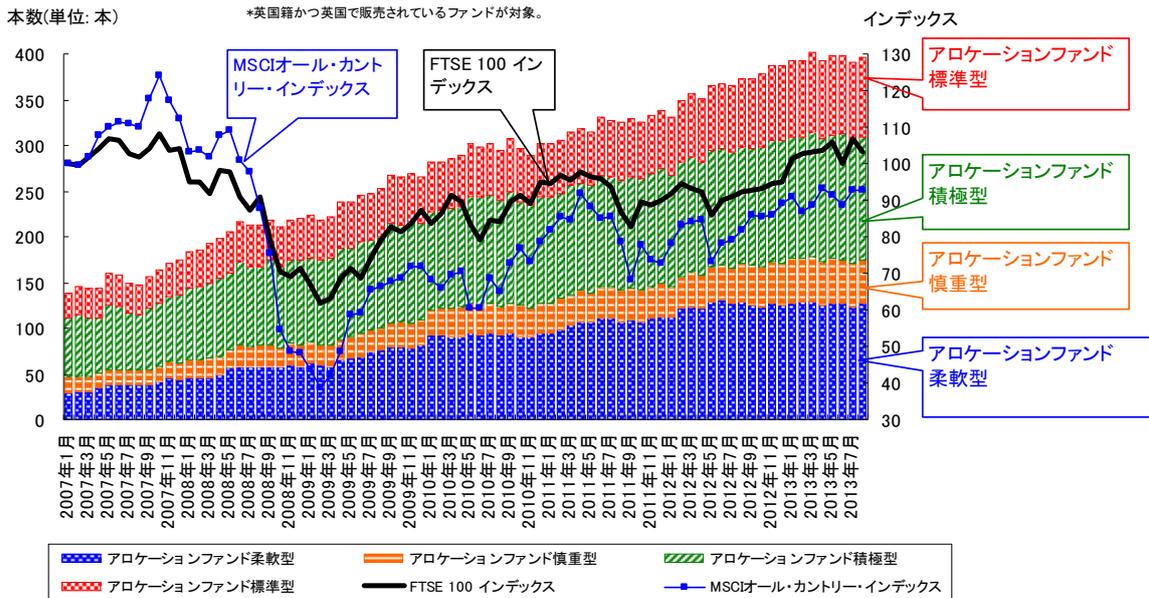
英国のアロケーション(資産複合)ファンドの本数・純資産・純設定

最後に、NISA(日本版ISA)の本案・英国におけるアロケーション(資産複合)ファンドも見る。英国籍のアロケーション(資産複合)ファンドの本数は、下記グラフが示す通り、2013年8月にかけて日本より順調に増えている(*データについて日本籍は1997年4月からだったが、英国籍は2007年1月からと短いことに注意)。純資産や純設定も、同様に、さらに順調に見える。英国も、米国と同様、アロケーション(資産複合)ファンド好調には国内株回復が大きな背景にある。



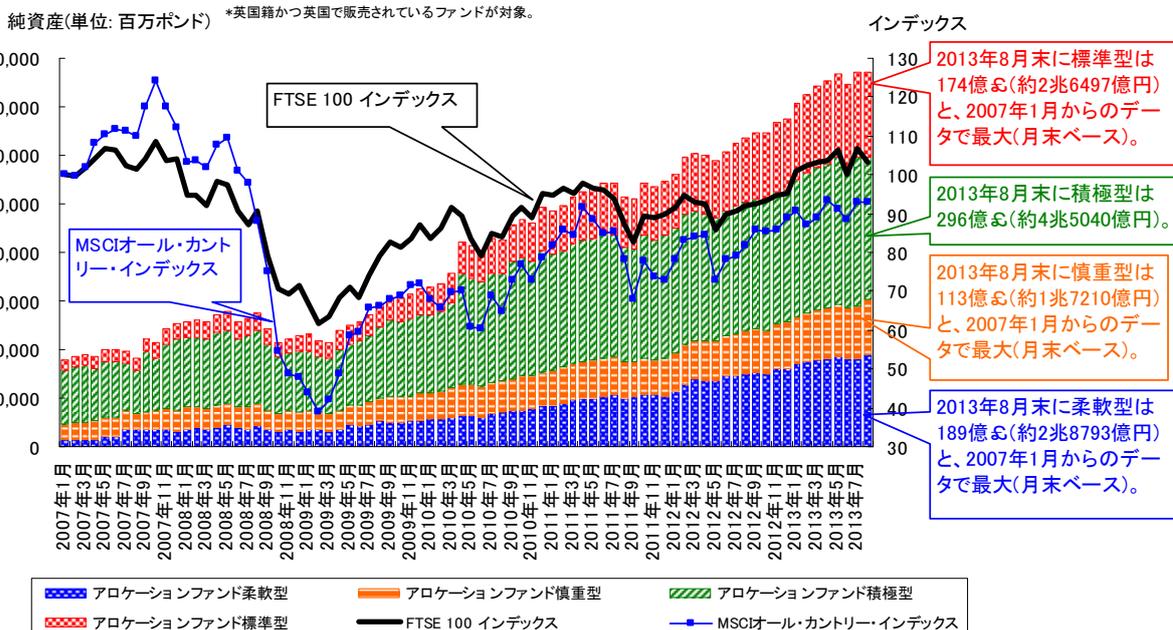
英国籍のアロケーション(資産複合)ファンドの本数とインデックスの推移
(2007年1月～2013年8月、月次データ)

*アロケーション(資産複合)ファンド…モーニングスター分類の「GBP Aggressive Allocation」、「GBP Cautious Allocation」、「GBP Flexible Allocation」、「GBP Moderate Allocation」。
インデックス…FTSE 100 インデックス、MSCIオール・カンントリー・インデックス(英ポンド換算)2007年1月31日=100。



英国籍のアロケーション(資産複合)ファンドの純資産とインデックスの推移
(2007年1月～2013年8月、月次データ)

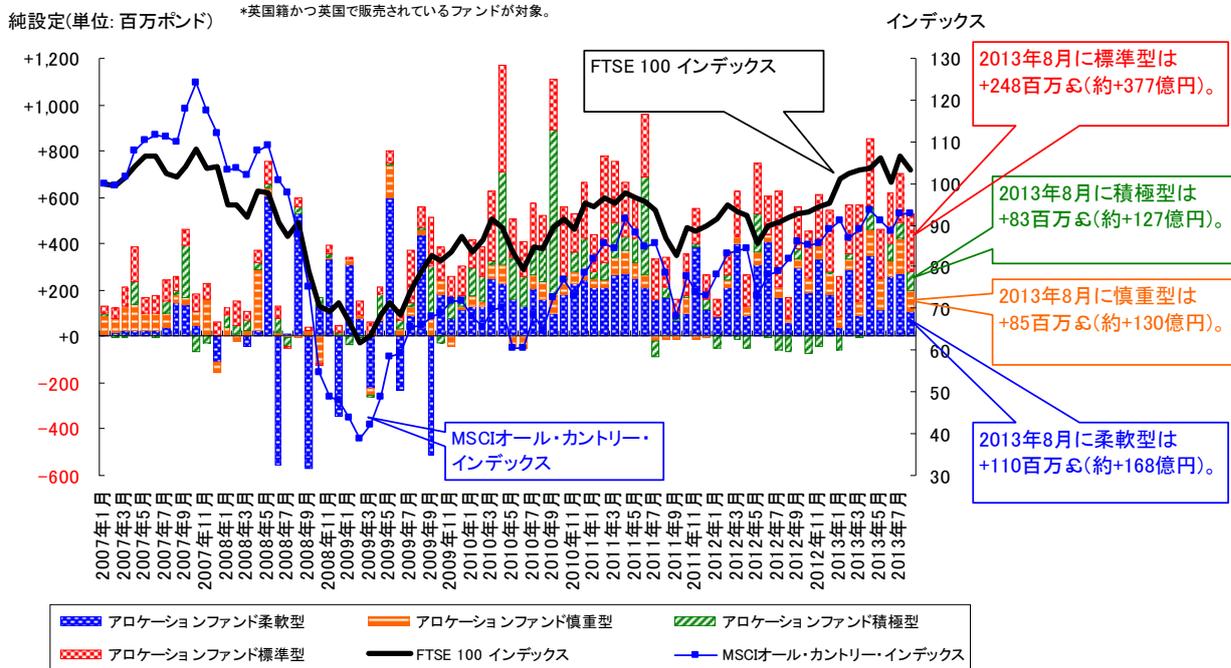
*アロケーション(資産複合)ファンド…モーニングスター分類の「GBP Aggressive Allocation」、「GBP Cautious Allocation」、「GBP Flexible Allocation」、「GBP Moderate Allocation」。
インデックス…FTSE 100 インデックス、MSCIオール・カンントリー・インデックス(英ポンド換算)2007年1月31日=100。





英国籍のアロケーション(資産複合)ファンドの純設定とインデックスの推移
(2007年1月 ~ 2013年8月、月次データ)

*アロケーション(資産複合)ファンド…モーニングスター分類の「GBP Aggressive Allocation」、「GBP Cautious Allocation」、「GBP Flexible Allocation」、「GBP Moderate Allocation」。
インデックス…FTSE 100 インデックス、MSCIオール・カントリー・インデックス(英ポンド換算)2007年1月31日=100。
*英国籍かつ英国で販売されているファンドが対象。



(出所: Ibbotson, ブルームバーグより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

以上、バランス型/アロケーション(資産複合)ファンドの日米英最新動向を見てきたが、NISAと国内株高を背景に、米英の投信で広がる資産分散が日本でも広がることを期待する。

[参考ホームページ]

2013年9月24日付日本版ISAの道 その28「NISA口座予約が9月までに証券だけで322万件! NISA向け急増を受け新ファンド数が最高レベルに急増!! 投資の流れは、海外株と海外債、そして国内株にあり!!!」…

「 <http://www.kokusai-am.co.jp/isa/index.html> 」。

以上

(投信調査室 松尾、窪田)

本資料に関してご留意頂きたい事項

本資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、国際投信投資顧問が作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。なお、以下の点にもご留意ください。

- 本資料中のグラフ・数値等はあくまでも過去のデータであり、将来の経済、市況、その他の投資環境に係る動向等を保証するものではありません。
- 本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、その正確性、完全性等を保証するものではありません。
- 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の国際投信投資顧問 投信調査室の見解です。
- また、国際投信投資顧問が設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。

本資料中で使用している指数について

- ・東証株価指数(TOPIX)は、(株)東京証券取引所及びそのグループ会社(以下、「東証等」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウは東証等が所有しています。
- ・MSCIオール・カントリー・インデックス(出所:MSCI):ここに掲載される全ての情報は、信頼の置ける情報源から得たものでありますが、その確実性及び完結性をMSCIは何ら保証するものではありません。またその著作権はMSCIに帰属しており、その許諾なしにコピーを含め電子的、機械的な一切の手段その他あらゆる形態を用い、またはあらゆる情報保存、検索システムを用いて出版物、資料、データ等の全部または一部を複製・頒布・使用等することは禁じられています。
- ・「ダウ・ジョーンズ」および「ザ・ダウ」はダウ・ジョーンズ社の登録商標です。ダウ・ジョーンズ工業株価平均(Dow Jones Industrial AverageSM)に係る著作権、およびこれに係る全ての知的所有権は、ダウ・ジョーンズ社に帰属します。尚、本資料では「ダウ・ジョーンズ工業株価平均」を「NYダウ」と表記しています。